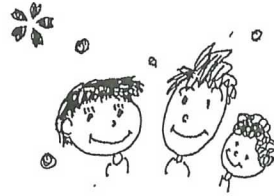


# よりそう

Side by Side



第39号

編集責任：筒井

編集担当者 筒井、新谷

## 投稿記事

### 津波を免れた方々の苦悩

主に避難所での仕事をお手伝いする「わかちあい隊」。そのメンバーで、これまであちあち話を伺っていた在宅の方を対象に、ライフラインや物資についてのニーズ調査を実施しました。

訪ねたのは、大槌町で壊滅的な被害を受けた海辺の集落です。山際に向かえば緩やかな上り坂に、津波を免れたお宅が建っています。ライフラインや物資は、最低限は整っているようです。困っていることを尋ねると、多くの方が物ではなく心だと訴えられました。「家をなくした同じ地区の方に対して肩身が狭い」、「津波で息子を亡くして苦しいのだが、家が残っているのび外ではつらい顔ができない」、「毎朝、窓の外を見ると、一面ガレキの変わり果てた町が目に見え込んでくるのがつらい」等々。「あなたがよき人だから、初めて『つらい』と言えた」と涙ながらにおしゃる方や、血圧の上昇などのストレスからくる体調不良を訴える方も多くいらっしゃいました。メンバー6人で約30軒訪ねましたが、この傾向は、ギリギリ手前で津波が止まった(前の家は全壊)という津波の最終到達ラインに近いお宅ほど顕著でした。これまでは、ギリギリで津波を免れた家を見かけると、幸運な家だと思っていました。そのような家に暮らす方の心の内を想像できなかったことを猛省しました。

避難所から仮設住宅へ移動された方の心のケアが課題だと、今言われています。しかし、同様に、ガレキに囲まれて暮らす在宅の方へも足を運ぶことが大切だと感じました。(東京都山本)

### 自転車で被災地周りへ



「年寄りが行っても役に立たないよ」という周囲の声を押し切って、今年9月からまごころネットに参加している小川隆朗(たかあき)さん。70才です。神戸市在住の小川さんは、阪神・淡路大震災

で被災した経験を持ち、今回は恩返しとして参加。泥出しやガレキ撤去などに汗を流しています。

2年前には、四国八十八カ所を自転車で20日間かけて巡礼したなど、自転車でのツーリングが好きなお小川さん。今年19日から1週間ほどかけて、茨城県日立市まで被災地を自転車で周り、行く先で「自転車のパンク修理ができれば」と語ってくれました。

### お知らせ

- ・タバコを捨てるときは、消火されているか確認すること
- ・受付で借りた物は、必ず返すこと
- ・フロアスチックバッグにゴミをまとめてゴミ箱に捨てないこと

※6/13(月)ボランティアミーティングはPM15:30～@体育館  
6/12(日)の宿泊：240人、活動：237人

6/13(月) 天気 晴

気温 16℃ S 21℃

降水確率 0%